

松本会員ゲストの能登様、米山奨学生の金君ようこそいらっしゃいました。

先週の地区大会、多くの会員の皆様ご登録ありがとうございました。

当日参加していただいた会員の皆様、お疲れ様でした。

合唱におきましては井上晃一先生、泉先生の奥様有難うございました。

また皆様の多大なご協力のおかげでクラブ表彰をいただく事ができました。

中学より学校教育の一環として学校部活が設置されています。

今日の朝刊に掲載されておりましたが、スポ一庁会議により運動部活動の指針が決まりました。長時間にわたる練習が生徒の怪我や教員の負担増しにつながっているとの声を受け、過度な部活を改善しようという試みです。

運動部の活動で週2以上の休みと、時間も最大で平日2時間、休日は3時間を目安としています。2016年の調査で週に1回も休まない学校は22.4%もあり、最低1ヶ月以内に怪我をした・している生徒は一日の練習が3時間以内が約3割、それに対し3時間以上は約4割で、部活が長いほど怪我の割合も高い傾向にあります。

負担は教員にもかかり、文部科学省の2016年度の調査では、土日に「5時間以上」を部活に使う顧問の教員は24.4%で10年前の2倍に増え、最近では生徒や教員を長時間縛る部活を「ブラック部活」と呼んでいます。

しかしこれだけの部活に時間を拘束されると、教員も生徒も大変ではないでしょうか。たぶん大会や練習試合など移動時間等が含まれた時間も入っていると思いますが、自分も中学時代部活を経験していましたが、練習だけで5時間以上というのはなかったと思いますし、時間が長ければ長いほど良いというものではなく、科学的なトレーニングを取り入れたり、合理的で効果的な練習を考えるべきですが、運動部顧問の半数近くがその競技種目の経験がない素人であります。

大阪市教育委員会は2015年から中学校10校で試験的に部活動の指導を民間の外部コーチに委託しています。ただし競技経験のない教員が顧問を務めている部が対象です。企業等から派遣されたコーチの技術指導を受けられると生徒にも当然好評であります。文部科学省は来年度から学校外の人が指導する部活動指導員を置く予定だといわれています。どちらにしましても、のびのびと運動できる環境づくりが大事だと思います。